

航空自衛隊美保基地で 新機種C-2のフライトを実施



9月25日、見学者が見守る中、美保基地の滑走路を飛行するXC-2

防衛省は、島嶼部における各種事態への対応や国際平和協力活動等における輸送能力の向上を図るため、現有の輸送機（C-1）の後継機として次期輸送機（C-2）を、平成26年度に美保基地に配備することを予定しています。

中国四国防衛局は、地元住民の理解を得る方策の一環として9月25日に美保基地でXC-2によるフライトを実施しました。



:見学会場の様子

■ ■ 次期輸送機 C-2 への機種変更 ■ ■

XC-2フライト(美保基地)

当日は、晴天にも恵まれ約300名の市民等が美保基地に足を運び、C-1に続いてXC-2がタッチアンドゴー、旋回を繰り返したのち、着陸、離陸を行い、C-1とXC-2との騒音の違いなどを体感しました。また、美保基地周辺でも市民等が上空を旋回する両機の騒音を聞くために集まりました。

美保基地及び周辺でも多くの市民等から「C-1より静かだ」との意見を頂きました。



XC-2のフライトの様子



C-1のフライトの様子

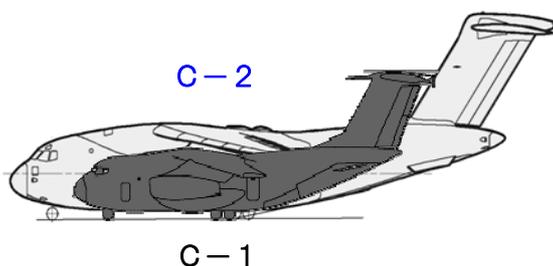


フライトに先立ち挨拶する辰己局長



見学会場の様子

C-1との機体諸元比較



	C-2	C-1
全幅	約4.4m	約3.1m
全長	約4.4m	約2.9m
全高	約1.4m	約1.0m
基本離陸重量	約120t	約39t
最大積載量	約30t	約8t
航続距離	約6,500km (12t積載時)	約1,700km (2.6t積載時)

XC-2フライト(岐阜基地)

当局は、美保基地でのフライトに先立つ8月26日、美保基地周辺の地元関係自治体の議員や地元関係者を招き、岐阜基地においてC-1とXC-2の離着陸の状況、上空通過やタッチアンドゴーの状況、機体の見学を実施しました。



誘導路を走行するXC-2(左)とC-1(右)



滑走路に進入するXC-2



格納庫での概要説明

住民説明会開催

当局は、去る4月27日に鳥取、島根両県に対しC-2への機種変更の協議を申し入れた以降、境港市、米子市、松江市、安来市などの地元関係自治体に対し説明や住民説明会を実施しています。



境港市余子地区ほか



松江市八束地区



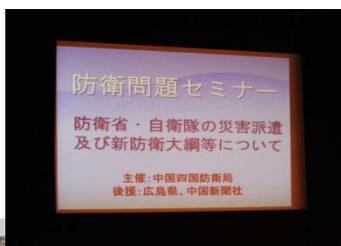
安来市

当局としては、今後とも地元の不安や懸念事項について説明を尽くして、機種変更への理解を得ていくことにしています。

■ ■ 防衛問題セミナー ■ ■

中国四国防衛局は9月21日、広島市において、第17回防衛問題セミナーを開催しました。広島市での開催は平成22年5月以来、今回が3回目で、当日、会場には約350名に上る多数の皆様が来場され、熱心に聴講されました。

今回の防衛問題セミナーは、広島県及び中国新聞社の後援を得て、「防衛省・自衛隊の災害派遣及び新防衛大綱等について」と題し、第1部及び第2部に分けて講演やパネルディスカッションを行いました。



会場の様子

第1部

東日本大震災における第46普通科連隊の活動状況について

第1部では、陸上自衛隊第46普通科連隊長 大元1佐が、3月15日から3ヶ月間、福島県相馬市において部隊が実施した行方不明者の捜索や被災者への生活支援（給食、給水、入浴支援等）などについて、説明を行いました。



相馬市から広島に単身赴任している聴講者から、現地での自衛隊の活動に対して感謝のことばが述べられました。



大元第46普通科連隊長



捜索活動



給食支援



入浴支援

第2部

新防衛計画の大綱等について



辰己局長による講演の様子

第2部では、中国四国防衛局の辰己局長が、新防衛計画の大綱及び新中期防衛力整備計画の概要について、近年の我が国周辺の安全保障環境を丁寧に説明しながら講演を行うとともに、海上自衛隊第1術科学学校長 鍛治海将補、中国新聞社の岩崎論説委員及び広島大学大学院の永山准教授の3名のパネラーを招き、パネルディスカッションを行いました。

パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、新防衛計画の大綱等に関する、さまざまな視点からの議論が交わされるとともに、聴講者からの質問に対し、パネラーの方々が分かりやすく説明されました。



パネラーに質問する聴講者



パネルディスカッションの様子



鍛治海将補



岩崎論説委員



永山准教授

聴講された方々からは、「自衛隊の活動内容についてより理解を深めることができた」、「自衛隊の災害派遣に感謝」、「防衛問題を以前よりも身近に感じた」、「防衛大綱や中期防の内容を良く理解できた」などの感想や意見を頂きました。

■ ■ パブリックアクセスロード使用開始 ■ ■



開通式でテープカットする福田市長、辰己局長



自転車で通り初め

8月18日、岩国飛行場滑走路移設事業により同飛行場北端に整備された「パブリックアクセスロード」の市民による使用が開始されました。同ロードは、滑走路移設事業に伴い廃止された海岸まで行けた市道の代替道路として整備したものです。

使用開始に先立ち、福田岩国市長や辰己中国四国防衛局長ら関係者が参加した開通式が行われ、辰己局長は「このロードは提供施設、一定のルールを守って気持ちよく有意義に市民の方に使用して欲しい」と述べました。

施設概要

- 全長 約394m(地下部分約156m) ■ 車道幅 4m ■ 歩道幅 2.3m
- 道路先端部分に駐車スペース

■ ■ 安心・安全パトロールを実施 ■ ■

川下地区のパトロール▶



◀麻里布地区のパトロール

8月19日、中国四国防衛局は、岩国市、山口県、米軍岩国基地及び地元防犯パトロール隊とともに、市民の安心・安全意識の向上を図ることを目的として市内のパトロールを行いました。

総勢約50人が隊列を組み、基地周辺の川下地区と駅前繁華街の麻里布地区において、「くらしやすい安心・安全なまちを」と書いたチラシを配り、市民へ安心・安全の意識向上を呼びかけました。

■ ■ 岩国基地に関する協議会を開催 ■ ■

8月10日、米海兵隊岩国航空基地に係る安心・安全対策について、中国四国防衛局、岩国市、山口県の3者が共同して問題解決を図るための「岩国基地に関する協議会」の第6回会合が岩国市役所で開催されました。



協議会に臨む関係者

中国四国防衛局から辰己昌良局長ら、岩国市から福田良彦市長ら、山口県から小松一彦総務部理事が出席しました。開催に当たり、辰己局長は「地元の期待に応えられるような結果を出していきたい」と挨拶し、約1時間半にわたり協議が行われました。



挨拶する辰己局長

今回の協議会では、最初に、新滑走路運用開始後1年の評価について議論が行われ、岩国市内の全ての地点において航空機騒音のうるさを表すW値が減少し、滑走路移設による騒音軽減効果が認められたことなどを確認した。なお、滑走路移設前後の航空機騒音状況については、協議会終了後に公表されました。

続いて、民航再開に向けた取組状況、地域振興策、住宅防音工事の拡充、航空機の騒音規制措置、山口県基地関係県市町連絡協議会の発足、日米交流事業、パブリックアクセスロードの利用開始、東日本大震災における対応状況、工事関係車両の渋滞対策など、多岐にわたる項目について幅広く議論が行われました。また、議題にはなかったものの、福田市長から、海上自衛隊の岩国残留について改めて要望を頂きました。



共同記者会見

協議会後に行われた共同記者会見においては、福田市長から、滑走路移設による騒音軽減効果が具体的に確認できたとして一定の評価を頂くとともに、「今後とも、市民の安心・安全の確保に全力を傾注し、多くの市民に納得のいくような結果を出すべく努力していく」旨の発言がありました。

■ ■ 国際平和協力活動 ■ ■

ゴラン高原派遣輸送隊帰国



出迎え



帰国報告



メダル授与

ゴラン高原の国連兵力引き離し監視軍（UNDOF）に派遣された第31次ゴラン高原派遣輸送隊（第14旅団基幹43人）が2月から9月の任務を終え無事帰国しました。

9月10日に帰国行事が行われ、井上第14旅団長からメダル授与や旅団長表彰がありました。

同派遣隊は、慣れない土地で食料品やオイルなどの輸送業務のほか、施設器材整備や燃料補給業務などを行いました。

ソマリア沖・アデン湾海賊対処派遣隊帰国

ソマリア沖・アデン湾における海賊対処活動のため、第8次派遣隊として民間船舶の護衛に当たっていた護衛艦「いなづま」と同「さざなみ」が、8月11日に海上自衛隊呉基地に帰国しました。

両艦は、3月15日に呉基地を出港。4月9日から7月15日までの間、船団護衛28回で233隻を護衛、総護衛距離は約2万8000キロに達しました。



入港する「いなづま」



帰国報告

■ ■ 井島（石島）山林火災の消火活動 ■ ■

8月9日1440頃、香川県直島町井島で山林火災が発生。香川県知事から災害派遣要請を受けた第14旅団と岡山県知事から同要請を受けた第13旅団は協同して、空中消火活動を実施しました。



火災現場井島



消火活動中の第14飛行隊

派遣期間：平成23年8月9日～8月12日

派遣場所：香川県香川郡直島町井島
岡山県玉野市石島

災害種別：山林火災

航空機：41機

派遣部隊：第14旅団、第13旅団など

空中消火：散水回数1637回 投下水量3165t

■ ■ 広島県防災訓練に参加 ■ ■

8月25日、広島県防災会議及び呉市防災会議主催の平成23年度広島県総合防災訓練が呉市で開催され、当局から辰己局長を始め防衛補佐官等が参加しました。

この訓練は、防災関係機関相互の災害時における緊密な連絡・協力体制の確立と、地域住民の防災意欲の高揚を図ることを目的として実施されたものです。

当局は、訓練に先立ち3回にわたり、広島県、呉市を始めとする防災関係機関の職員と様々な意見交換を行うとともに、訓練当日、東日本大震災における自衛隊等の活動写真の展示を行いました。

主会場では、倒壊建物等対応訓練や海上自衛隊のLCACによる海上輸送訓練などを目の当たりにした参観者から大きな感嘆の声が上がっていました。また、当局が行った写真展には、一般の方々など約1000名が訪れ、自衛隊の懸命な救助活動写真や米軍の心温まる支援活動写真などを熱心に見入っていました。



訓練に参加する海自LCACと陸自ヘリ



バケツリレーによる消火訓練



東日本大震災支援活動写真展

■ ■ 東日本大震災支援活動パネル展示 ■ ■

東日本大震災において自衛隊及び米軍が行った、捜索、救難活動や救援物資の輸送等の活動状況を多くの方々に知って頂くため、8月26日から9月5日の間、ゆめタウン広島店の協力を得て、写真展を開催しました。

開催に当たっては、広島地方協力本部と共催し、陸上自衛隊第13旅団及び海田駐屯地、海上自衛隊呉地方隊、岩国航空基地の協賛を得て、地元部隊を含む自衛隊及び米軍の活動写真約160枚を展示しました。



開催期間中、会場には同店を訪れた家族連れの買い物客や高校生、大学生の若者など、6000名を超える方々が被災地で活動する自衛隊員らの姿に足を止め、熱心に見入っていました。

■ ■ 防衛施設建設工事完成 ■ ■

下士官宿舎完成



外観



室内の様子

8月25日、米軍岩国基地の下士官宿舎2棟が完成しました。6棟整備の計画で残りの4棟は23年度中の完成を目指しています。

施設概要

- 構造 鉄筋コンクリート造3階建
- 延床面積 約4900㎡、約4090㎡

乗客ターミナルリボンカット式



外観



乗客ターミナルのオープンを記念してリボンカットを行う辰己局長(左)、米空軍リッチー大佐(中央)、スチュワート岩国基地司令官(右)



ロビーの様子

8月19日、本年2月25日に完成後、東日本大震災の支援活動などで中止となっていた乗客ターミナルのオープンセレモニーが行われました。

■ ■ 地元住民と共同清掃作業 ■ ■



清掃活動終了後参加者で記念撮影



清掃活動の様子



9月11日、米陸軍第83兵器大隊のジェームス・フーパー司令官をはじめとする隊員や日本人従業員、当局企画部次長ら27名が参加し、周辺住民の方々と米陸軍川上弾薬庫周辺の地域清掃作業を行いました。参加者からは「米軍の協力で短時間で終わることができた。今後はさまざまな形で日米交流をしたい」と話していました。

■ ■ 人事異動 ■ ■

夏の定期人事異動により新しく中国四国防衛局の一員となった職員を紹介します。

総務部長



矢島富夫

地方防衛局での勤務は初めてですが、二つの世界文化遺産（原爆ドーム、厳島神社）が身近にある広島に勤務できることを楽しみにしています。

8月22日の着任後、協力確保事務の一環として管内の自治体を回り防衛白書の説明、防衛セミナーの広報等を行って参りましたが、地元の皆さんとの信頼関係を築くことが重要と感じました。

どうぞよろしくお願いたします。

玉野防衛事務所長



寺地宣明
1等海佐

海上自衛隊舞鶴造修補給所から玉野防衛事務所長として着任しました。

玉野防衛事務所は、9名の所員で岡山県、鳥取県及び四国における装備品等の監督・検査業務を行っています。

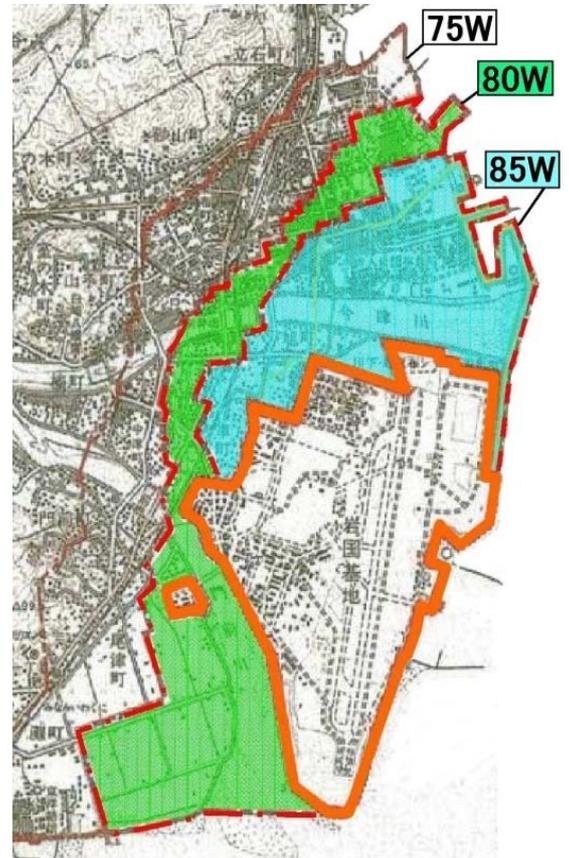
特に三井造船玉野事業所で建造中の護衛艦（21DD）は玉野では17年ぶりの建造であり、将来の海上防衛を担う最新鋭護衛艦の起工から就役までの各種検査、試験の実施に誠意をもって取り組んでいます。

■ ■ 80W区域の告示後住宅の防音工事を実施 ■ ■

現在、中国四国防衛局では、岩国飛行場周辺において、防衛施設周辺の生活環境整備等に関する法律第4条の規定に基づく住宅防音工事を助成しておりますが、この度、空母艦載機の岩国飛行場への移駐等により新たに生ずる騒音問題に取り組むため、騒音の著しい80W以上の区域に所在する告示後の住宅を対象とした住宅防音工事を助成することとしました。

住宅防音工事の詳細については、下記までお問い合わせ又は当局ホームページをご覧ください。

中国四国防衛局 企画部 住宅防音課
TEL082-223-7211



この図面は、平成4年3月27日告示時点のものである。

対象となる区域	対象となる期日
昭和53年12月28日に告示した区域 (防衛施設庁告示第20号)【85W以上】	平成 4年3月28日から 平成23年9月20日まで に建築された住宅
昭和55年9月10日に告示した区域 (防衛施設庁告示第15号)【80W以上85W未満】	

■ ■ サマーミュージックフェスティバル ■ ■



バンド演奏を楽しむ観客



食事や遊具を楽しむ
家族連れ



米海兵隊岩国航空基地で8月27日、「サマーミュージックフェスティバル」が開催され、日米の若者や家族連れなど約4000人が訪れました。

会場の特設ステージでは、日米のアマチュアやプロのロックバンドなどの演奏のほか、岩国の郷土芸能も披露されました。また、日米の食べ物が味わえる屋台や子供も楽しめる遊具が設置され、来場者はイベントを楽しみました。

今年は、東日本大震災の支援活動などから中止となった、毎年5月5日に開催される「日米親善デー」に代わる日米交流の機会として企画されました。

■ ■ 海上自衛隊岩国航空基地祭 ■ ■



1日群司令に任命された
女優島田陽子さん



展示飛行する救難飛行艇



航空機展示

9月18日、海上自衛隊岩国航空基地で恒例の岩国航空基地祭が開催され、家族連れや航空ファンら約3500人が訪れ、秋の1日を楽しみました。

今年は、記念式典で女優の島田陽子さんが1日群司令に任命されるサプライズのほか、祝賀展示飛行や航空機展示、海自呉音楽隊の演奏会、海自輸送艦「くにさき」の一般公開など多彩な催しが行われました。海自小月教育航空群の航空学生によるファンシードリルが披露されると、一糸乱れぬ演技に会場内が沸きました。



航空学生によるファンシードリル